

会 議 録

| | |
|---------------|---|
| 名 称 | 北九州市都市再生整備計画事業事後評価検討会 |
| 議 題 | 小倉都心地区 |
| 開催日時 | 平成25年12月12日(木) |
| 開催場所 | 北九州市役所 15階 特別会議室B |
| 出席者 | <p>北九州市都市再生整備計画事業事後評価検討会 構成員</p> <p>座長 寺町 賢一 (九州工業大学大学院 工学研究院 建設社会工学研究系 准教授)</p> <p>牛房 義明 (北九州市立大学 経済学部 経済学科 准教授)</p> <p>東 恭子 (第10期 北九州ミズ21委員会 委員)</p> <p>横田きみよ (コンセプトピディア 代表)</p> <p>事後評価担当(事業課)</p> <p>建築都市局 都心・副都心開発室</p> <p>検討会事務局</p> <p>建築都市局 事業調整課</p> |
| 議事内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1 開会の挨拶 2 座長、構成員の紹介 3 事後評価制度の概要説明 4 議 事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 当該地区について説明 <p>「まちづくりの経緯説明」「事後評価手続き等」「今後のまちづくり」について</p> (2) 事後評価手続き等にかかる検討 (3) 今後のまちづくりについて検討 5 事後評価検討会後のスケジュール 6 報告事項 7 閉会の挨拶 |
| 構成員の 主なご意見 | <p>○事業課より、当該地区のまちづくりの経緯、事後評価手続き等、今後のまちづくりについて一括説明</p> <p>○事後評価手続き等にかかる検討 (成果の評価について)</p> <p>寺町 座長</p> <p>指標4と5は両方とも従前値を下回っているが、達成度は指標4が「×」、指標5が「△」と異なっている。指標4の従前値と評価値の差異は5%程度であるが、来街者アンケート調査の結果を用いていることを考えると誤差の範囲内なのではないかという感じがする。「×」とまで言う必要があるのかやや疑問がある。</p> <p>事業課</p> <p>指標4は来街者アンケート調査、指標5は交通事業者資料を用いている。指標5</p> |

については過年度の実績値が減少傾向で推移してきているため、それを踏まえて推計値を算出しているが、指標4については年度によってばらつきが多いため推計値を算出していない。

指標5については、評価値が目標値には満たないものの、推計値を上回っているため「△」の評価としているが、指標4については推計値がないため、目標値に満たないことをもって「×」という評価をしている。

横田 構成員

「夜の安全度」に対する評価が悪化しているという結果になっているが、小倉駅の周りはずいぶん明るくなったし、まちの印象も良くなっているのではないと思う。アンケート調査の中でそういった意見をうまく引き出すような設問設定が必要なのではないかと感じる。

大きな事件などによりイメージが低下することはやむを得ない部分があると思うが、漠然とした聞き方をしてしまっているため、回答も漠然としたイメージ先行のものになってしまっているのではないかを感じる。

東 構成員

小倉都心地区は体感的には以前に比べて非常に良くなったと感じるが、評価結果が今一つなのは残念である。指標の設定にも問題があったのではないかを感じる。

寺町 座長

まちづくりの目標や実施する事業を踏まえて、うまく指標を設定することを検討すべきである。

夜の安全度についてはもう少しアンケート調査での設問を工夫する必要がある。あるいは犯罪発生件数など、客観的に治安の状況を表現できるような指標の設定を考えるべきはないか。

事業課

本地区では次期計画も予定されているため、ご意見を踏まえて、アンケート調査などの手法等も含めて検討して行きたい。

牛房 構成員

定性的な効果発現状況に記載されている内容について、イベント等であれば開催回数や来場者数、発電であれば発電量など、定量的に表現することも可能な事項になっているように感じる。もっと本当に定性的にしか表現できない内容があればそちらを盛り込んだほうが良いのではないか。

事業課

発電施設に関しては現状では具体的な数値が整理できていないため、定性的な効果発現として整理している。イベント等についてはご指摘の通り概算で数値を把握することが可能な内容となっているため、定性的な効果発現について再度精査し、記載内容を検討する。

(実施過程の評価について)

横田 構成員

住民参加プロセスの実施状況が「なし」となっているが、持続的なまちづくりの項目の中に記載されている内容は、住民参加プロセスとして捉えることも可能な内容となっている。空欄にしておくのではなく、記載できるものがあればできるだけ記載したほうがよいのではないか。

事業課

ご指摘いただいた部分について、再度精査をして、記載可能なものは追記する。

(効果発現要因の整理について)

牛房 構成員

目標未達成となった指標 1、2、4、5では、事業の影響度がいずれも「△」「×」となっているが、計画当初はこれらの事業は「○」あるいは「◎」になるということ想定していたのか。「○」や「◎」にならないということは、実施事業が設定した指標に見合ったものになっていなかった、あるいは、設定した指標自体が妥当ではなかった、ということではないか。

事業課

計画当初ではそれぞれの事業が各指標の目標達成に資するものと想定していたが、結果的には指標自体が目標未達成となったため、事業の影響度としては効果があったものについても「△」という形になる。

目標未達要因としては、集客核となる施設整備の遅れなどの影響が大きいと考えられるが、例えば指標 1 に関しては歩行者空間の拡充など様々な事業を位置付けて実施してきており、個別事業の効果は発現しているものと考えている。

寺町 構成員

事後評価は PDCA サイクルの「C」の部分に該当するため、「△」や「×」があっても構わないと思うが、今後の改善につなげていくことが重要である。

(事後評価原案の公表について)

東 構成員

パブリックコメントで市民からの意見がゼロということだったが、まちづくり団体や学生の方々に声かけをして意見をあげてもらうような工夫も必要なのではないかと思う。

(その他)

横田 構成員

まちづくりの目標として、「環境」というキーワードが出ているが、それを評価する指標が公共交通の利用者数のみとなっている。環境に関する様々な施策を実施してきているため、その他指標などで何か追加できれば良かったのではないかと感じる。

牛房 構成員

環境に関する指標として、例えば都心部を走る自動車の減少や、太陽光発電など

により CO2 排出量がどれだけ削減されたか、などといった指標が考えられる。指標化が可能であれば次期計画等の中で検討してもらいたい。

エコドライブプロジェクトについて、計画当初はかなりの予算が計上されていたはずだが、最終的には 600 万円ぐらいまで減少している。理由が分かれば教えてもらいたい。

事業課

本地区では次期計画も予定されているため、ご意見を踏まえて、指標の設定等も含めて検討して行きたい。エコドライブプロジェクトに関しては、経緯を確認して後日回答させていただく。

○今後のまちづくりについて検討 (今後のまちづくり方策について)

横田 構成員

これまでの課題が事業の実施によりどのように変わり、次にどうつなげるのか、といった点が見えにくい。これまでやってきたことをそのまま続けていく、といったような印象を受ける。

事業課

これまで取り組みを実施してきた中で、目標を達成できていない部分が多いため、引き続き取り組みを進めていくことが必要であると考えている。具体的な内容については今後検討していくこととなるが、より効果的な施策や新たな切り口からの取り組みなどを進めていければと思っている。

地域の方々の意見もうかがい、まちづくり団体などとも協働しながら、より良いまちづくりに向けた検討を進めていきたいと考えている。

横田構成員

安全・安心については、単純に PR だけすれば良いということではないのではないか。地域住民がどのように感じているのか、住んでいる人たちが安全だと感じているのであれば、そういったものを表に出してもらおうような工夫も必要である。

寺町 座長

今後のまちづくり方策の中で昼間人口の増加を図っていくこととしているが、現実問題としてなかなか難しいのではないかと。昼間人口も重要であるが、まちの活力向上を図る上では夜間人口を増やしていくことが不可欠である。夜間人口を増やしていく中で、昼間人口も増加していく、というのが現実的な方向性ではないか。

事業課

まちなかのにぎわいづくりを考える上では、夜間人口と昼間人口の両方が重要であり、昼間人口を増やしていくことのベースとして夜間人口の増加も必要であることはご指摘の通りである。

市の上位計画の中では、スタジアムの新設に関連して昼間人口の増加を図っていくこととしており、また、リノベーション事業などにより就業の場を増やしていくことも考えている。

(その他)

東 構成員

小倉駅新幹線口はずいぶん良くなってきており、今後はスタジアム新設などの事業もあるようだが、汐風公園などは夏は良いが冬は寒々としており、冬場も人を集めるような工夫が必要なのではないかと感じる。まちづくり団体などとも協力して、取り組みを進めてもらいたい。

また、小倉駅周辺や紫川などはいつも風が強いという印象がある。ああいった場所に風力発電の風車を設置して環境都市を PR してみる、といったこともあって良いのではないかと思う。

寺町 座長

それでは、色々なご意見を頂きましたが、小倉都心地区の事後評価手続きについて、適切に実行されたということですのでよろしいでしょうか。

構成員一同： 了解

寺町 座長

次に、今後のまちづくり方策について、妥当であると認めてよろしいでしょうか。

構成員一同： 了解

寺町 座長

ありがとうございました。

それでは、以上をもちまして小倉都心地区の議事を終了致します。

事業課

ありがとうございました。

会 議 録

| | |
|-----------|--|
| 名 称 | 北九州市都市再生整備計画事業事後評価検討会 |
| 議 題 | フォローアップ報告（H24年度完了地区） |
| 開催日時 | 平成25年12月12日（木） |
| 開催場所 | 北九州市役所 15階 特別会議室B |
| 出席者 | <p>北九州市都市再生整備計画事業事後評価検討会 構成員</p> <p>座長 寺町 賢一（九州工業大学大学院 工学研究院 建設社会工学研究系 准教授） 牛房 義明（北九州市立大学 経済学部 経済学科 准教授） 東 恭子（第10期 北九州ミズ21委員会 委員） 横田きみよ（コンセプトピディア 代表）</p> <p>フォローアップ担当課 建築都市局 都心・副都心開発室（黒崎副都心地区） 建築都市局 事業調整課（曽根地区）</p> <p>検討会事務局 建築都市局事業調整課</p> |
| フォローアップ報告 | <p>○フォローアップ報告について （事務局及び担当課より説明）</p> <p>昨年に事後評価を実施した地区のフォローアップについて、報告させていただきます。</p> <p>フォローアップにつきましては、事後評価の際に、推計値で評価を行っていたものについて、実測値が確定した時点で、確定値に置き換え、事後評価の確認を行うものです。</p> <p>今回の報告対象は、平成24年度完了の黒崎副都心地区、曽根地区の2地区でございます。</p> <p>それでは、報告に移ります。</p> <p>先に結論からご報告いたしますと、今回フォローアップを行う2地区につきましては、推計値と確定値に大きな差があったものはございませんでした。</p> <p>従いまして、今回の報告では、各地区の担当事業課から、主に、A3横の概要（参考資料）で、指標の状況を説明させていただき、あわせて事後評価以降の取り組みについて紹介させていただきます。</p> <p>【黒崎副都心地区】</p> <p>黒崎副都心地区でございます。お手元のA3横の概要資料をご覧ください。</p> <p>黒崎副都心地区では、表左の目標に対し、3つの指標を立てて、事後評価を行いました。</p> <p>これらすべての指標で、推計値を使っていたため、今回、確定値（実測値）に置き換え、評価の確認を行ったものです。</p> <p>指標1、駅乗降客数は、目標値 28,109 人/日に対し、評価時点の推計値 30,134 人/日が、確定値 31,018 人/日になっています。</p> |

指標 2、中心商店街内の歩行者通行量は、目標値 13,972 人/日に対し、評価時点の推計値 16,216 人/日が、確定値 16,871 人/日になっています。

指標 3、地区内人口は、目標値 11,460 人に対し、評価時点の推計値 13,510 人が、確定値 13,345 人になっています。

指標 3 では、確定値が推計値を若干下回っておりますが、事後評価の方向性は昨年と変わっておりません。事後評価時に説明させていただいた通り、今後のまちづくり方策に従い、鋭意改善に取り組んでまいりたいと考えております。

なお、本地区につきましても、駅前のペDESTリアンデッキの整備が進み、安全性及び景観性が向上するとともに、そこでイベントが行われるなど、地域の魅力づくりに貢献しています。

また、本事業で整備した「文化・交流拠点地区（黒崎ひびしんホール、図書館、芝生広場）」及び「黒崎駅前線（ふれあい通り）」等においても、地域が主体となったイベントが活発化し、街の賑わいを演出しました。

さらに、若手経営者やこれまでに地域活動に参加していなかった新たな担い手を対象とした勉強会が行われるなど、まちづくりの担い手の育成や地域コミュニティの醸成や活性化に資する取組が行われました。

今後もこのような取組を継続して実施してまいりたいと考えております。

【曾根地区】

曾根地区でございます。お手元の A 3 横の概要資料をご覧ください。

曾根地区は、旧北九州空港跡地、約 61ha に、自動車関連産業を中心とした新産業拠点の形成を図るとともに、労災病院を核とした医療・福祉施設を中心とした土地利用の促進を図るなど、新都市開発拠点として魅力的なまちづくりを行うことを目標に整備を進めてきました。

事後評価では、4つの指標と2つのその他の指標を設定し、達成状況の評価を行い、昨年の事後評価時は、これらすべての指標で推計値を使っていたため、今回、フォローアップとして確定値の報告をさせていただきます。

指標 1、JR 下曾根駅の 1 日あたりの乗降客数は、目標値 12,125 人に対し、評価時点の推計値が 12,157 人でしたが、確定値は 12,312 人で、推計値を上回る数字となり目標を達成しております。

指標 2 から 4 については、企業の進出や道路整備などが予定通り進捗したため、推計値と確定値が同じになっておりますので、説明は省略させていただきます。

次に、昨年の事後評価検討会以後の取り組みについて、ご報告させていただきます。お手元の A 3 の航空写真とパワーポイントの資料をご覧ください。

道路の整備状況ですが、曾根 225 号線の工業団地に抜ける道路が平成 25 年 3 月に供用開始しております。

次に、企業の立地状況ですが、ドラッグストアコスモスの物流センターとプリントパックの印刷工場が 10 月に操業を開始しております。また、東洋コルクの自動

車部品工場が年明けの1月から、また、JSPの発泡プラスチック原料工場が来年4月から操業開始を予定しております。

現在、進出を表明している企業がすべて操業を開始すると、約500人の雇用が創出され、目標としていた900人にはまだ届きませんが、引き続き、空き区画の早期売却に向けて、誘致活動を積極的に展開しているところです。

(昨年の検討会以後は、プリントパックとシーシーアイの誘致に成功、現在、区画1の約5haについて商談中)

次に、住宅の開発状況ですが、東宝ホームの戸建て住宅団地「そらの街」約80戸がほぼ完売しており、今年の2月から随時、入居を開始しております。

また、マンションの建設工事も次々と着工され、大英産業が48戸、第一交通が46戸、その他、賃貸マンションの建設予定もあり、トータル約300戸のマンションが供給される予定になっています。

次に商業施設ですが、労災病院の向かいにマルショク曾根店が9月にオープンし、また、11月にはコンビニのローソンもオープンして、沿道商業施設の立地も進んでおります。

この他、老人ホームや病院の建設なども予定されており、着実に新しい街が形成されつつある状況です。

最後に、曾根干潟との緩衝緑地となる環境保全地区の整備については、昨年度までに現地測量、土壌調査などが終了し、今年度は国の補助事業を活用して、約10haの用地を取得(買戻し)する予定にしております。今後は公共事業の評価を行い、正式に事業着手する予定になっています。

以上のように、曾根地区では「暮らし」「産業」「環境」の3つの柱をもとにした土地利用が着実に展開されております。

今後の取り組みとしては、門司区と小倉南区を結ぶ都市計画道路6号線や、環境保全地区の緑地整備を早期に完成させるとともに、新たな雇用創出につながる企業誘致についても引き続き積極的に展開し、小倉南区の発展に寄与できるような魅力的なまちづくりに取り組んでいきたいと考えております。

構成員の
主なご意見

○フォローアップ報告に対する意見

【黒崎副都心地区について】

(特に意見なし)

【曾根地区について】

(特に意見なし)

事務局

ありがとうございました。

これで、フォローアップ報告を終わります。